

ボランティアアドバイザーの役割と養成の進め方

ボランティアコーディネーター，アドバイザー研修プログラム研究委員会中間報告書（概要）

平成7年3月
全国社会福祉協議会
全国ボランティア活動振興センター

全社協・全国ボランティア活動振興センターは、ボランティアアドバイザー構想を具体化するため、平成6年に「ボランティアコーディネーター，アドバイザー研修プログラム研究委員会（委員長：上野谷加代子，桃山学院大学教授）」を設けた。同委員会は3カ年でボランティアコーディネーター及びアドバイザーの研修プログラムや教材の開発を行うことを目的としているが、この程、ボランティアアドバイザー（以下：アドバイザーとする）の役割・機能、研修プログラム等について中間報告をまとめた。以下、その要点を説明する。

1 なぜアドバイザーが必要か

ボランティア活動に参加したいという人が相談窓口や具体的な活動へとつながるには、学校、職場など普段その人がいる場所で、友人・仲間を通じてボランティア活動についての情報が得られること、参加の際に誘いあえること等が必要となる。それには、様々なボランティア活動の種類・内容や活動を始める際にどうすればいいかを知っている人がいろいろな場所に多数いる状態が必要だが、現在はそのような状況にはない。また、今日の参加希望者の急増や層の広がり、様々な活動についての深い知識が必要なことを考えると、コーディネーターが全ての活動領域についての知識・情報を持ち、様々な領域の活動支援を担うことは困難になっている。

アドバイザーによって、活動希望を持つ市民とボランティアセンター等の窓口がつながること、ボランティアにとっての最も身近で利用しやすい活動支援体制ができること、アドバイザー同士の交

流が促進され、地域にボランティア同士の様々なネットワークが形成されること、ボランティアセンター・コーディネーターがアドバイザーと結びつくことで、センターが様々な分野の新しい動きから刺激を受け、市民性を強く持つことができること、を意図し、アドバイザー構想は提案されたものである。

2 アドバイザーの性格，役割・機能

(1) アドバイザーの性格，役割・機能

アドバイザーの最も特徴的な性格は、「情報提供や相談を必要とする人と同じ仲間」であることである。そして、生活体験、活動を共有する仲間としての共感・視点にたって、これから活動をしたい人や既に活動をしている人に対する日常的な相談・助言を主として行い、その人の自己決定を促すよう側面から支援する。

これから活動したい人に対しては、その人の活動ニーズや動機をつかみ、その人にあった活動や実際に活動に入るにはどうしたらよいか等の相談をうけ、情報提供や助言をする。また、実際に活動につながるよう、自らのネットワークを活かしてコーディネーターや他のグループリーダー、アドバイザーなどのキーパーソンに紹介する。また、場合によっては活動に誘い、きっかけづくり、導入の支援を行う。既に活動している人に対しては、活動上生じる様々な精神面での悩み・つまずき（マンネリ感、家族の理解、仕事との両立、活動上の様々な負担感等々）に関する相談・助言をする。また、利用者や職員との関係上生じたトラブルで組織上の対応を要するものなどは、活動先のコーディネーター等の調整を求

めるようアドバイスする。

(2) ボランティアコーディネーターとの違いと協働

ボランティアコーディネーターとアドバイザーとの本質的な違いは、アドバイザーがあくまでも「仲間」であることに対して、コーディネーターはボランティア・センター、施設、企業等の組織・機関における「職」としての立場にあることである。コーディネーターも、当然、活動したい人に対する情報提供、相談・助言を行うが、職が行う相談・助言と仲間が行うそれとは、必要としている人にとっての気軽さ、利用のしやすさ、あるいは意味や受けとめ方、内容等におのずから違いがある。コーディネーターはアドバイザーとの協働によりコーディネーター個人ではカバーできない幅広い活動領域についての情報や知識を得ることができ、また、年代等の違いによる生活感覚や意識のズレを埋めることが可能になると考える。

(3) ボランティアグループリーダーとの共通点と相違点、協働

ボランティアグループのリーダーは、グループ活動のまとめ、活性化、新規加入者への助言、その活躍分野の技術指導等の他、当然、アドバイザーの役割として想定しているような活動中の様々な問題に直面したときの相談・助言を行っている。しかし、他分野の活動に関する関心、知識、情報、ボランティアの役割等についての幅広い知識、様々な人的ネットワークの有無は、リーダーによって大きな差がある。

特に、初めて活動をする人たち、新しい活動の場・グループに入ってくる人たちはちょっとした緊張や不安を抱えており、何気ないことが大きな精神的なつまずきとなる。また、長く活動をしている人であっても当初の目的の喪失、グループ内の人間関係の変化、自分自身の興味の変化、個人的な生活の事情の変化等によって、心配事への助言、新たな刺激、活動内容（場所）の変更等が必要になっている。そうした人々への共感や必要な配慮ができ、また、自らの活動だけでなく他分野についての知識や人的ネットワークを持ち、そのグループの人としてだけではない視野にたって気軽に相談できる人が仲間の中にあることが必要である。

実際は、一つのグループの中で、ボランティアリーダーがアドバイザーの研修を受けて、ある時にはリーダーとしての立場を越えてアドバイザーとして機能するケース、ある時にはリーダーとは異なる他のメンバーがグループメンバーとしての立場を越えてアドバイザーとして機能するケース、あるいはグループの活動内容・活動の場の状況によりアドバイザーがいらない（必要としない）ケースなど様々だろ

3 アドバイザーの要件、研修等

(1) アドバイザーの要件

アドバイザーは、概ね3～5年のボランティア活動の経験を持つこと、一定の研修を受講すること、活動のための継続的支援が受けられるようボランティアコーディネーターのいる機関に登録すること、を要件とする。

(2) アドバイザーの研修

アドバイザーの研修としては、基礎研修、及び継続研修の2種類を提案した。基礎研修は、アドバイザーとして必要な基礎的な実践力を身につけることを目的としたものである。5日間・20時間程度（図参照）、20名以下の少人数で行うことが望ましいとした。あくまでも出発点であるとの考え方であり、基礎研修修了後はボランティアコーディネーターのいるボランティアセンター等に登録し、継続的な情報提供、仲間づくり、研修・学習の機会をうけることが大切である。

継続研修はアドバイザーとしての実践力をより確かにするためのものである。活動の場等の特性からアドバイザーに求められる役割の違いにより、継続研修は統一したものではなく、地域、機関、団体の事情により様々なものがあってよい。

いずれにせよ、アドバイザーとしての性格から、アドバイザーが学習・研修内容の企画・運営・評価に参加すること、研修終了後もアドバイザー同士がお互いに学びあい、研鑽しあうような学習会やコーディネーターとの日常的な会合等を通じた学習が大切である。

(3) 研修実施機関

研修は各市区町村社協ボランティアセンター，社会福祉施設，企業等，コーディネーターがいる組織・機関が行う。他分野の活動についての知識や，様々な分野の人々とのネットワークがアドバイザーの活動に役立つことを考えると，これらの機関がそれぞれ単独で行うよりは，互いに協力して行うほうが効果的である。その意味では，市区町村社会福祉協議会を中心に(場合によっては複数の市区町村が共催，あるいは都道府県・指定都市社協ボランティアセンターも支援し)，様々な組織が，地域内あるいは広域的に協力しあうことが現実的である。

4 アドバイザーへの活動支援

アドバイザーが，自らの実践力を高め，孤立せずに同僚やグループのメンバーから受け入れられて活動していくためには支援が必要である。そのためボランティアセンター等が中心となり，アドバイザー

への活動支援のためコーディネーターがいる機関への登録，アドバイザーへの日常的な情報の提供・交流の促進，研修，交流等の機会の提供，連絡会等の仲間づくり，自主的な勉強会の支援，アドバイザーへの認知を高めるための社協広報紙，企業の社内報などでの広報・PRを行うことを求めている。

5 地域等の実情に応じた工夫

アドバイザーは，地域や活動の場，それを必要とする機関・団体の特性によって，様々な活動形態が考えられる。アドバイザーの実際の呼称，活動内容，研修内容等は地域の必要性に応じた様々な試みがあってよいと考えている。研究会としても地域の実践を踏まえながら，また，提案内容を見直していきたいと考えている。

(文責 全国社会福祉協議会・全国ボランティア活動振興センター)

基礎研修〈内容と時間配分〉

	全体の流れと1日ごとのねらい		内 容
1 日 目	まず、アドバイザーとしての役割・活動の考え方を理解してもらい、イメージをもってもらうことを目的としている。そのためできるだけ、ビデオや実際に活動している先輩のアドバイザーの人との意見交換などをいれ、アドバイザーとしての活動イメージを実感できるようにする。	夜 間 3 時間	(1)オリエンテーション(30分) (2)知識・役割の理解(その1) ・ボランティア活動のビデオ鑑賞と意見交換(90分) ・ボランティアアドバイザーの意義と役割について講義と意見交換(60分)
2 日 目	アドバイザーの基本的な役割である相談の進め方を学ぶことを目的としている。 2日目は主に、これから活動したい人への相談を中心に学ぶ。相談の事例・理論等を学ぶとともに、相談の時に必要となるボランティア活動の分野・種類についての知識、情報ハンドブックの使い方等についても学習する。	夜 間 3 時間	(1)相談技術等(その1) ・これから活動をしたい人への相談(理論・事例の解説、演習)(105分) (2)知識・役割の理解(その2) ・ボランティア活動の分野・種類についての知識(30分) (3)実務の演習(その1) ・情報ハンドブックの使い方(45分)
3 日 目	3日目は、活動している人への相談事例・理論とともに、活動者のニーズ、コーディネーターとの連携のあり方について、2日目・3日目の演習を踏まえ学習する。	夜 間 3 時間	(1)相談技術等の実習(その2) ・活動している人への相談(理論・事例の解説、演習)(120分) (2)知識・役割の理解(その3) ・活動者のニーズについて(講義・意見交換)(30分) ・コーディネーターとの連携について(30分)
4 日 目	①2日目・3日目に学んだ相談技術、情報ハンドブックの使い方を、対象者に合わせて応用する実習を目的とする。 ②実習では、地域で実際にアドバイザーとして活動できるよう、地域で行われている様々な活動を理解し、そこで中心的に活動するアドバイザー、リーダー、コーディネーターとの関係づくりを目的としている。	午 前 3 時間	(1)相談技術等の実習(その3) ・情報提供技術の実習(60分) (2)連絡方法等の実務の演習(その2) ・コーディネーターや活動希望者との連絡方法(120分)
		午 後 3 時間	(3)実習～ボランティアセンターの訪問(180分) ・地域で行われる様々な活動への理解 ・コーディネーター、他のグループリーダー、アドバイザーとの関係づくり
5 日 目	最後に、これまでの講義、演習、実習で学んだことを再確認するとともに、さらにケーススタディ等を通し、アドバイザーとして実際に活動する際のバリエーションの幅や条件等のイメージを明確にしてもらうことを目的としている。	午 前 3 時間	(1)交流～コーディネーター、他のアドバイザーやリーダーとの交流・意見交換(180分)
		午 後 3 時間	(2)知識・役割の理解(その4) ・アドバイザーの活動ケーススタディ(30分) ・コーディネーターとの連携ケーススタディ(30分) ・他分野のアドバイザー、コーディネーターとの連携ケーススタディ(30分) (3)受講者・講師・コーディネーター等との交流・反省会(60分) (4)アフターフォローの案内(30分)